

都市マスタープラン改定における課題

現行都市マスタープランを下記課題について検討します。

(1) 人口減少・少子高齢化の進展

現行都市マスタープランにおいて人口の減少、少子高齢化の進展により、人口の伸び率は低下するとしながら、2023年の将来人口を総合計画と整合を図り20万人としていました。

総合計画は2023年で計画期間が終了することから、見直しを行い将来人口が示されます。

また、上位計画である三重県都市計画区域マスタープランでも急速な人口減少と少子高齢化の進展による地域活力の低下が課題として挙げられています。

鈴鹿市の現状としても自然減の減少幅が年々大きくなっており、全体として人口の減少傾向から回復できない状況にあります。今後も人口減少が続くと、現在の都市機能・サービスを量的にも質的にも維持することが困難となることが予想されます。

また、同時に少子・高齢化が進行し、生産年齢人口（15～64歳）も大きく減少しており、将来的に本市の経済や地域を支える人材が不足するほか、地域コミュニティの維持が困難になることが危惧されます。

このようなことから、人口減少に伴う影響について検討する必要があります。



(2) 地域経済活力の維持向上

現行都市マスタープランに5つある都市づくりのテーマの一つとして、活力ある都市づくりの方針を示し、鈴鹿ICや鈴鹿PAスマートIC周辺に産業集積を図ってきました。

また、上位計画である三重県都市計画区域マスタープランにおいて、高速道路ICや幹線道路沿道への産業集積について課題として挙げられています。

鈴鹿市の現状として広域道路ネットワーク等の整備が進んでいることから、それを活用した更なる産業集積が求められますが、鈴鹿PAスマートIC周辺、鈴鹿IC周辺は農用地が多くあり産業と農業の共存についての懸念があり、今後どの地区に産業集積を促すのか方針を示す必要があります。

また、商業や観光分野においても地域経済活力の維持向上を考えていく上で検討が必要で、適切なエリア設定など、まちづくりの観点から集客力の向上を図り、より交流人口、関係人口、移住者の増加につなげていくことが求められます。

このようなことから、地域経済活力の維持向上について検討する必要があります。

(3) コンパクトシティ・プラス・ネットワーク

現行都市マスタープランに5つある都市づくりのテーマの一つとして、コンパクトで住みよい都市づくりの方針を示していますが進展が見受けられない状況です。

また、上位計画である三重県都市計画区域マスタープランにおいて、都市機能の効率性と生活利便性の向上として、集約型都市構造の構築に向けた立地の適正化を図り、その周辺への居住誘導により、人口密度を維持し、生活サービスの存続を図ることが課題として挙げられています。

鈴鹿市の現状として、都市拠点への都市機能の集約化によるコンパクトな都市づくりを目指しておりますが、さらなる有効な土地利用と都市機能の立地誘導に向けた施策を検討する必要があります。

また、集約型都市構造の構築の検討において、都市間を繋ぐネットワークの在り方についても引き続き検討する必要があります。

(4) 大規模自然災害

現行都市マスタープランでは5つある都市づくりのテーマの一つとして防災・減災の都市づくりで方針を示しています。

また、上位計画である三重県都市計画区域マスタープランにおいて、災害リスクの高い場所では、用途を考慮した都市的土地利用の抑制や建築物の構造規制等を行うほか、災害リスクの低い場所への都市機能や居住の移転を進めるなど、大規模自然災害による被害の低減に向けて都市構造の再編が課題として挙げられています。

鈴鹿市の現状としては、市街化区域の多くに風水害や地震・津波による浸水想定区域が指定されているなど浸水被害が懸念されています。ハザードエリアの周知は行っていますが、立地適正化計画の策定など被害の低減に向けた施策を検討する必要があります。

(5) 「アフターコロナ」におけるまちづくり

社会経済情勢・時代の潮流からみたときに「アフターコロナ」におけるまちづくりは外せない項目になっています。

コロナ禍において保健衛生・医療における問題点が浮き彫りとなりましたが、今後は、感染症と共存するまちづくりが求められます。

コロナ禍は保健医療分野以外にも大きく影響を及ぼしています、働き方や暮らし方の変化もその一つで都市のデジタルシフトによるオンラインの普及によりリモートワーク・ネットショッピング・オンライン診療・オンライン教育など大きく生活形態が変化しています。

「アフターコロナ」において都市のデジタルシフトに対応したまちづくりについて検討する必要があります。

第1回 鈴鹿市都市計画審議会小委員会
(都市マスタープラン改定検証)
市民意向の把握手法

令和 3 年 8 月

○前回改定作業における市民意向の把握手法

(平成 24 年度・25 年度・26 年度・27 年度都市マス改定作業)

アンケート調査 (平成 24 年度)

- 調査対象集 鈴鹿に住民登録をしている 18 歳以上の市民 3,000 人
 - 対象者の抽出方法 平成 24 年 8 月現在の住民基本台帳から、各地域（現行都市マスタープランの 8 地域区分による）の人口、性別、年齢などを考慮し無作為抽出
 - 調査方法 郵送による配布・回収
 - 調査期間 平成 24 年 9 月 20 日（木）～平成 24 年 10 月 5 日（金）
 - 配布 3000 票 回収数 1132 票 有効回答数 1129 票（37.63%）
 - 設問の構成
 - 回答者の基本属性 性別／年齢層／就業地、通学地／居住区域／職業
 - 市全体のイメージ 現在のイメージ／将来のイメージ
 - 市全体の土地利用 重要なものを 3 つ選択
 - 市全体の都市の評価 現在の満足度／今後の重要度
 - 今後の鈴鹿市の防災 不安度／不安を感じる要因
 - 居住地周辺のまちづくりの評価 現在の満足度／今後の重要度
 - 居住地域周辺の住みやすさ 住みやすさ／住みにくい場合の理由
- ※平成 15 年度にも同様のアンケートを実施しており平成 24 年度のアンケート調査結果とあわせて市民意識の傾向や、市民意識の変化の傾向を公表している。

23 地区 地区別会議 (平成 25 年度)

平成 25 年 11 月 22 日～平成 26 年 2 月 25 日にかけて 23 地区で地区別会議開催
地域別会議の結果について縦覧を実施

縦覧場所 都市計画課窓口、地区市民センター、ホームページ、市民ギャラリー
縦覧期間 平成 26 年 5 月 26 日～6 月 26 日の 1 ヶ月間
(市民ギャラリー掲示：平成 26 年 6 月 11 日～16 日)

鈴鹿医療科学大学ワークショップ (平成 27 年度)

平成 27 年 9 月 24 日 説明会 10 月 29 日 中間演習
11 月 12 日 中間発表 12 月 24 日 発表

都市マスタープラン全体構想骨子 (案)

パブリックコメント 平成 27 年 7 月 6 日～平成 27 年 8 月 6 日 意見の件数 7 件
オープンハウス 平成 27 年 10 月 31 日午前 10 時から午後 5 時
鈴鹿ハンターショッピングセンター センターコート
市民ギャラリー 平成 27 年 7 月 21 日～7 月 24 日
鈴鹿市庁舎市民ギャラリー

○今回想定する市民意向の把握手法

○アンケート調査

前回改定時（平成24年度）及び平成15年度にもアンケート調査を実施している。今回の改定においても前回同様のアンケート調査を実施し市民意向の傾向や、市民意識の変化の傾向を把握したい。

○地域別会議

地域別会議は地域づくり協議会から意見を吸い上げることで代用する
災害危険区域・ハザードエリア内の地区については地域にて会議を持つ

○大学でのワークショップ

前回改定時（平成27年度）同様に実施したい。高校生を対象としたワークショップの開催は見送る

○オンラインを活用したワークショップ

地域別会議など対面でのワークショップは高齢男性が多数を占めることが想定され、若い世代の方の意見聴取を行いたいことからオンラインを活用したワークショップを開催したい。

○関係団体からの意見聴取

○パブリックコメント

第1回小委員会での主な意見と対応方針

鈴鹿市都市マスタープラン一部改定について

- 農業従事者人口が激減しており高齢化も著しい、後継者がいないところも多く耕作放棄地が増えている、今後の農業について心配している。
 - 農業や自然と調和したバランスのあるまちづくりが必要で、産業・農業共に検討を進め、農業で活用する場所、産業で活用する場所それぞれを議論しながら鈴鹿市内の土地利用を検討します。
- 参考資料2において上位関連計画の中に健康づくりの計画が入っていない。都市マスタープランに健康づくり計画を反映した形で改定できるとよい。
 - 「ウォークアブル・シティ」等健康寿命と都市計画の関連する言葉もあり、健康づくり計画をどのような形でまちづくりに反映できるか検討します。
- コンパクトシティ・プラス・ネットワークについて、鈴鹿市は3つの地区（平田・神戸・白子）の駅周辺に集積され、分散型になっている、効果的に集約できていないと思う。

市街化調整区域のインター周辺に企業誘致を積極的行っても企業の近くに住宅を建築することができない現状がある。

 - 長い年月がかかると思うが、一つの街に集約できればと考えています。

インター周辺は産業集積が現在進行中であり 西部地域の拠点として市街化調整区域の拠点として注目をしながら大きなビジョンで検討を進めます。
- 教科書的なコンパクトシティ・プラス・ネットワークは鈴鹿市には合わない、鈴鹿市の現実と将来展望を見据えてクリエイティブに独自に形を考えていく事が基本的な考え方。

現都市マスの5つのテーマ別方針等ベースはうまくできているので課題や現状を5つのテーマごとに議論整理していくとよい。

様々な分野で技術の開発が起こっているので、現都市マスのベースに戦略的に行うプロジェクトが加わると動きがある都市計画・都市マスができる。

 - 現行都市マスの5つのテーマ別方針をベースに検討を進めます。
- 将来構想を持ち、50年体系の中の5年という考えで検討してほしい。

市内に工業系の高等教育機関が無いこの点も生産年齢人口を増やす構造の中ではデメリットになる。

 - 都市マスの中でどこまでできるかわからないが、総合計画へ働きかける等行い、昼夜間人口のバランスがとれるよう検討します。

- 資料の、一次産業、二次産業、三次産業の人口推移の中でその他産業はどのような産業を指すのか。
 - その他産業は新しい産業区分ではなく、改めて一次産業、二次産業、三次産業の区分で推移を見ています。
- カーボンニュートラルや気候変動適応がマスタープランの重要な柱になる。SDGsについても掲載の必要がある。
 - 環境部局や関連部局と協議し、検討を進めます。
- 将来の産業形態の変化を見据え、一社に頼らない多岐にわたる分野の企業誘致や物流の拠点を考えていくべきだ。
 - 産業部局と十分に協議を行い、工場や物流の需要把握し検討します。

市民意向の把握手法について

- オンラインは新しい取り組みで良いと思う。
災害危険区域等の地区において重点的に地域の将来像を議論していく事は良いと思う。
市民参加のタイミングは改定案について計画案の方向性が出た早い段階で意見を聞き、どんどん良い意見やいいアイデアを取り込んで計画案をブラッシュアップしていく方がよい。
 - タイミングという点についても検討します。
- 各業界、各産業（農業、商業、工業、観光）からアンケートを取り分析したらどうか。
 - 各分野における意見集約について検討します。
- 若い人の意見を聞くことは良い。高校生も鋭い意見を持っているので自分たちが帰ってきたい街はどんな街なのかという感覚で、高校生の意見を聞くと良いと思う。
 - どのようにすれば若い層の意見を集約できるのかを念頭に置きながら、市民の意向を把握します。